

国際イノベーション人材育成の試行

嵯峨山和美¹⁾、井手祐二²⁾、福田スティーブ利久³⁾、兼平重和¹⁾

¹⁾徳島大学産学官連携推進部、²⁾鹿児島大学北米教育研究センター、³⁾大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

1. はじめに

徳島大学の産学連携の歴史は、1991年の地域共同研究センター設置に始まる。以後、産学官連携推進部として総合マネジメント機能を強化してきた。人材育成の機能についても充実させ、総合的な視点から積極的に日本国内における産学連携活動に取り組んできた。しかし、近年、経済活動のグローバル化が加速し、国内企業との連携だけではなく、海外企業との連携が必須となってきた。このような状況から、産学官連携推進部は、2010年度より米国カリフォルニア州シリコンバレーに本学の国際産学連携の拠点として「徳島大学シリコンバレーオフィス「英語名称：UT Silicon Valley Branch」」を運用している。

ここでは、米国拠点を活用し、現地で活動している日本の大学のサテライトオフィス、日本学術振興会(JSPS)研究連絡センター、サンフランシスコ・ベイエリア大学間連携ネットワーク(JUNBA)との連携により、地域社会人や学生へ「地域の活性化を先導できる国際イノベーション人材育成」の展開についての取組みを紹介する。また、2012年度は、試行的に現地から配信される遠隔講座を提供し、その受講生が現地研修等に参加したので、その概要を報告する。

2. 講座の設計

Fink(2003)が提唱する意義ある学習を促進する授業設計⁽¹⁾を参考に、「基礎知識」、「応用」、「統合化」、「人間の特性」、「関心を向ける」、「学び方を学ぶ」の各項目について講座構成を検討した。また、Seelig(2010)の創造力溢れる人材を育てるための「クリエイティビティを高める9つの要素」⁽²⁾を参考に検討した。

しかし、産学官推進部が独力で「国際イノベーション人材育成講座」を開講することは困難であった。よって、現地のサテライトオフィスから既

に遠隔講座を開講している4大学からヒアリングを行い、シラバスと現地研修のプログラムを検討した。前述の項目を可能にする鹿児島大学の共通教育で開講中の遠隔講座と現地研修プログラムを採用し、試行的に提供することとした。

3. 遠隔講座

「国際プロフェッショナル概論」は、鹿児島大学の前期共通教育の本講義開講日程に合わせ、毎週水曜日、1限目に提供した。以下、シラバスの一部を引用する。「国際イノベーション概論」は、後期に予定していたが、本学の学生・地域社会人への広報不足により提供を断念した。

(1) 講座の目的：

国際社会で活躍できる人材に必要なスキルとその習得方法を学習する。

(2) 内容と方法：

国際社会で活躍するプロフェッショナルになるためには、どのようなスキルを身につけるべきか、そしてどのような心構えで習得すべきか、また日本と海外の比較などを行う。

その後、米国で活躍する外交官、会計士、大学教授、教育者、研究者、エンジニア、コンサルタント、通訳者、ジャーナリストなどの複数の日本人プロフェッショナルにより、実際の経験に基づいた講義を高速インターネットを介して米国からの遠隔講座で行う。

(3) 学習目標：

国際社会における日本の立場と現状を理解した上で、日本人として、また国際人として、海外で活躍できるプロフェッショナルになるための、スキル、経歴、人格などを理解し、自己実現の基礎とする。自分の将来像を描き、勉学や人生に対する目標を定めるマインドセットを持つ。

4. 現地研修

(1) 平成24年度 鹿児島大学主催 大学連携による海外研修基礎コース：

複数の国内大学による合同海外研修プログラムで、米国の多民族文化と科学技術のメッカでもあるカリフォルニア州サンノゼ市近郊のシリコンバレーを中心に、米国の大学や企業を訪問し、異なる文化や価値観を学ぶ。また海外で活躍する起業家やコンサルタントによる講演会、研究者や技術者とのディスカッションを行い、国際的な広い視野を身につけると共に、人生や勉学に対する目標を定め、自己実現の基礎とすることを目的とする。さらに、サンノゼ州立大学にて開催する「日米未来フォーラム」に参加し、日米間の歴史を学び、今後の日米関係や世界のあるべき姿についてのディスカッションと発表を行う。

(2) 平成24年度 鹿児島大学主催 大学連携による国際プロフェッショナル養成プログラム：

米国カリフォルニア州サンノゼ市の企業や教育機関にて、海外で活躍する日本人の指導を受けながら2週間の実習を体験する。後半は、英語プレゼンテーション研修や米国の大学生との交流、米国の大学や研究所・ベンチャー企業などを訪問し、異なる文化や価値観を学ぶ。また、海外で活躍する起業家やコンサルタントによる講演会、研究者や技術者とのディスカッションを行い、国際的な広い視野と専門知識の習得を目的とする。

5. 考察

(1) 遠隔講座

現地で活躍するそれぞれのプロフェッショナルな講師陣より、各人の体験談を交えて聴講でき刺激となった。しかし、講師陣からの日本の大学生へ発信する熱い思いから、エールを送る似た講義内容が重なった。受講生からは、現地での仕事のプロフェッショナルな講義内容が聞きたかったとの指摘があった。この点については、鹿児島大学の共通教育と位置付け1年生を中心に構成されている。本学からは、学部3年生以上の受講生であったため、むしろ、仕事の技術的内容を中心とした「国際イノベーション概論」がそれに相

応すると考えられる。

(2) 現地研修

海外研修基礎コースの参加者から、「単に英語はコミュニケーション手段にしか過ぎず、むしろ語学力より専門分野において何らかの価値を提供できる人間でなければ海外では活躍できない」との報告があった。同時に、個人のみならず、日本の技術イノベーションの歴史、日本の得意分野の技術を認識することは重要である。

6. おわりに

本学の米国拠点を活用した現地組織との交流からは、日本の将来を真剣に危惧した声が多く聞かれる。国際社会では、グローバル人材の育成を国際的な産学連携で行う必要性が高まっている。

本学の産学官連携推進部イノベーション人材育成部門では、1995年度より人材育成講座を開講しており、講座には専門技術講座、生産管理講座、インターンシップ講座等が開設されている。本学では、これら産業人材育成を発展させ、学生の教育とを結びつけた総括的な「国際イノベーション人材育成」を展開する必要があると考える。

謝辞

本取組みは、鹿児島大学北米研究センター、研究国際部国際事業課国際事業系の教職員の方々のご理解とご協力により実現したものである。心より深く感謝申し上げます。また、本学研究国際部産学連携・研究推進課研究企画係、産学連携係、産学官連携推進部イノベーション人材育成部門の職員の方々のご尽力に心より感謝致します。

参考文献

- (1) Fink, L. D. (2003). *Creating significant learning experiences: An integrated approach to designing college courses*. San Francisco, CA: Jossey-Bass.
- (2) Seelig, T. (2009). *What I wish I knew when I was twenty: A crash course on making your place in the world*. New York, NY: HaperOne.